

猫の散歩

文 部 省 選 定
厚 生 省 推 薦
東京都教育委員会選定

全三卷



企画 中外製薬株式会社

製作 桜映画社



猫が見た、人間と害虫どもの真夏の騒動！ 愉快的猫の綴方



ものがたり

「吾輩は猫である」といっても漱石先生の猫とちがって、僕にはきまった家がない。しかし幸い、耳は人間の四倍もよく聞えるので（鼻は大君におよばないが）食事どきの合図はあつちからもこつちからも聞えてくる。でも油断は禁物。僕の存在なんか人間様は認めちゃいないんだから、見つかる、何も悪いことをしないのに、いきなり物をぶつけられたりする。

それでも僕の生活は自由。キジネコ君の話によると、銀座裏なんかノラ猫やネズミの天国だそう。この界隅のゴミ箱はそれほどでもないけれど、僕はこの町が好きだ。人間はかたんに引越して行くが、僕はぜつたいふるさとを大切にすな。

陽気はいいし、食べ物には不自由はないし、三、四月から五月にかけて僕はわが世の春を謳歌した。しかしあとから考えてみるとそれも束の間で、初夏の或日僕の生活環境には突然不吉なものが現れた。行く先々にあの気味の悪いハエが先廻りして、不作法にも食べ物の上にウジ共を生みつけるし、急にノミがふえて体はかゆく、そのノミにどの水飲場もボーフラがいっぱいいて、待望の夏がすっかり憂鬱な現実に変ってしまったのである。

ゴミ屋さんはたまに姿を見せると奥さん方と大ゲンカをした。ゴミ屋もゴミ屋だが、奥さん方も奥さん方で、空地も川もゴミで一ぱい。犬をつれた奥さんは道端で平気で脱糞する大君の行儀作法などにも全く無関心だ。（大君たちはこの際吾輩を少し見習い給えといいたい。）

ゴミというゴミは異様な悪臭を放ち、僕は飢餓状態にあつた或る日、勝手口でまるまると太ったネズミを発見した。これはゴチソウとばかり眼をこらすと、ネズミの体もダニでいっぱい！

そのネズミが天井裏であれば、人間の家族は又ネズミの運動会がはじまつたなんて天井を見上げながら平気で食事をしているんだからいやになる。ダニが落ちてくるなんて知つちやいないんだ。

ハエ、ゴキブリ、ネズミ、ダニ、夜になると蚊、——人間の家なんて害虫共の共同アパートみたいなものだ。

人間と害虫共、彼らは仲よく暮しているが、しんから打ちとけているわけではもちろんな

かいせつ

毎年、夏を迎えると蚊とハエの駆除が繰返されます。

かつて数年前、三年計画の蚊とハエの駆除運動が厚生省によってはじめて提唱されたとき、短篇映画の名作「百人の陽気な女房たち」が生れ、教育短篇としては空前のヒットとなりました。

「猫の散歩」は、「百人の陽気な女房たち」を企画制作した、中外製薬・桜映画のコンビが生み出したアイデアです。

猫の習性については、日本猫の会の副会長でもある愛猫家の山本嘉次郎氏（映画監督）、坂西志保氏（評論家）、平岩米吉氏（動物学者）増山仁太郎氏（日本動物愛護協会）はじめ、大勢の方をお訪ねして勉強させて頂きました。映画家の吉田氏はか撮影にご協力下さった方々と共にお礼を申し上げます。

かった。

この静かな町に或る日見たこともない急救車が物すごい音響を立てて入って来て、知り合いの坊やを乗せて走り去った。ケガかと思つたら、日本脳炎だったらしい。そのうちに新聞は小児マヒの発生を連日大掲載、奥さんたちもゴミをそつちのけにして、生ワクチンを貰いに保健所へ押しかけた。僕も見物に行つた。（猫は好奇心が非常につよい。）突然に、人間と害虫共の壮烈な闘いが勃発した。町をあげて大掃除がはじまつたのである。殺虫剤の匂いには閉口したが、とにかく僕も快哉を叫んだ。このたかいで人間が勝てば、春さきのように僕も気持ちがよく暮せるようになるというものである。

一夜明けるとほんとに町はきれいさっぱりした。ハエも蚊もゴキブリもウソみたいに姿を消してしまつた。僕はゆつくりと朝化粧を楽しんで、さて食事をと台所廻りにかつた。ところが、ところがある。厨芥の穴は埋められ、ゴミの山も姿を消し、こわれていたダスターシートの口もフタが出来ておまけに殺虫剤で食べられそうもない。僕はわてた。これでは砂漠と同じだ。僕の頭にはノラ猫も、ハエやネズミと同じじゃないかという不吉な考えが閃いた。僕は頭にきてしまつた。

折も折、包丁の響きと共に新鮮な魚の妙なる匂いが、僕のひくい鼻に流れてきたのである。僕は夢中でかけつけた。軽トラで来た魚屋が皿にのせた魚の切り身をもつて一軒に入つて行くところだった。僕はエイツとばかり軽トラの上になり、やおら大きなアジをくわえて降りようとした。そのとき突如として僕は柔かいエリ首をつかまれたのである。あつと思ふ間もなく、魚をとり落したばかりか、僕は太い金アミのザルに押し込まれ、軽トラは走り出した。

これからの苦勞はとうてい筆舌にはつくしがたいので、映画を見て頂くことにしよう。結果だけ申上げると、幸いハッピーエンドになった。

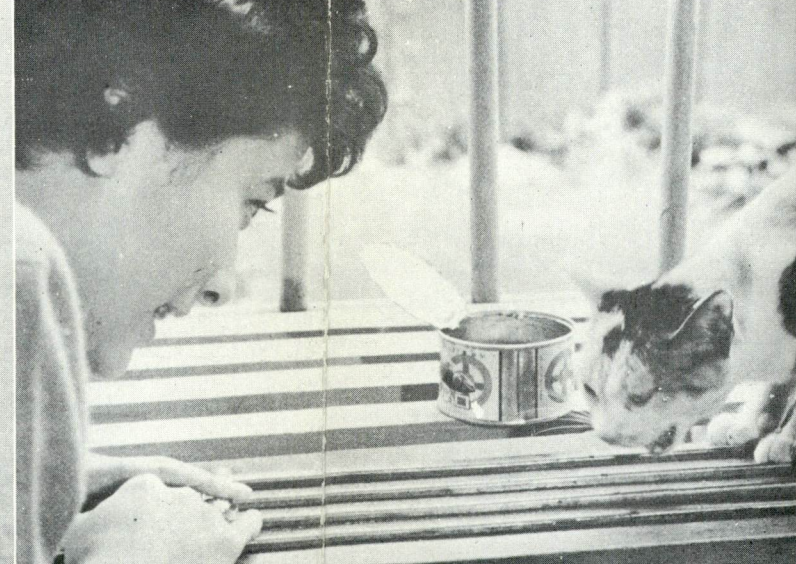
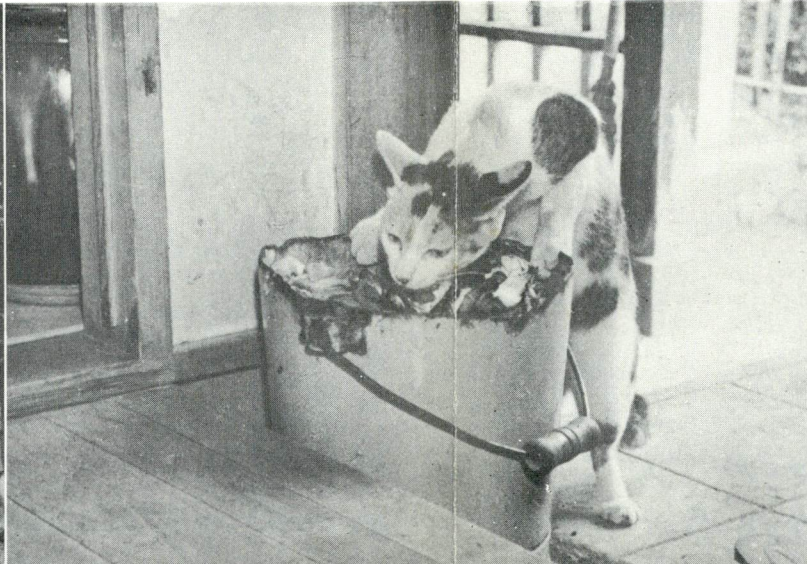
わが町は一変した。蚊やハエがいなくなつた代りに野良猫用の食堂もなくなった。

僕は野良猫稼業から足を洗って、前から眼をかけてくれていた御隠居夫婦の飼ひ猫になつたのである。「猫は家につく」という教えに従つたわけである。

全三巻

スタッフ

製作・村山英治
監修・山本嘉次郎
原案・上田忠信
脚本・岡野薫子
監督・大橋秀夫
撮影・安承玖
音響・大野松雄
猫（声）・高橋和枝
同（文）・筒井敬介
編集・沼崎梅子
録音・峰尾研究所



主役の猫えらび

「猫はやめた方がいいよ、犬とちがうからね。演
出しようたって、いうことなんか聞かないからね」と、会う人はみんないいました。しかも野良猫でやろうっていうんですからね。中には「そりあ面白いいね、着想がいい」という責任感のほしいことをいってくれる人もいました。

この企画が、朝日新聞の青鉛筆欄に掲載されると、東京はもちろん九州の方からまで、電話や手紙が殺到しました。もちろん、主人公の猫の推せんです。かくて生れた約五百匹の猫候補のうち二百四ぐらいに、監督やカメラマンが会いました。普通の俳優の面接とちがって監督さんの方から見知らぬ家を一軒々々に訪ねて行くのですから大へんです。

最後にえらばれた「ノラさん」は、東京の雑司谷に住む版画家の吉田さんの家にそのとき偶然に迷いこんだ本物の野良猫で、満一才近いメスでした。いかにも野良猫らしく、しかも立派で、カメラ度胸も十分とあって、これに決定という次第。

「猫の散歩」評

厚生省 原田 正二
◎猫の活躍で終りまで見せ、やばったお説教がない。使い道が広く、利用価値が高いと思う。演出の難かしい猫を、自然につかまえたところが大変良い。しかし何と言っても、アイデアの勝利である。

会社員 大方 曾太郎
◎教育映画ほど面白くない映画は少ない。その原因は様々だと思う。その中において、猫から見た人間の社会をついた点、実に面白い企画でした。夏目漱石先生も天国から笑っているでしょう。動物の中で猫は余り利巧でないと思っていましたが、スタッフ諸君の努力で良くまとまったものです。猫万才！

会社員 野中 淳
◎大変面白く楽しく見ながら、スタッフの方々の苦労が思われて、素人の私にもこれは大変な仕事だったと想像出来ます。しかもスポンサーの意図は心憎いまでに見るものに話かける。

医師 島崎 敏樹
◎大変おもしろく、良く作れたものと感心しました。猫の演技力が人間よりも光って見えるのを大変面白く思いました。

学生 三谷 英
◎この映画は、僕は劇映画の様に感じていたがまし

た。猫の演技力がずばぬけていて、とても普通の映画に見られない面白い映画でした。

学生 大森 保紀
◎猫の行動と人間の感情がよく表われており、環境衛生についても良く描かれていました。

公務員 羽沼 広光
◎演技力のある猫を主役に、風刺的に描かれており、環境衛生の重要性がかえって身にびつたりと来た。

演出家 永富 映次郎
◎漱石先生の猫を思わせる微笑ましい企画でした。猫の動きにも感心しました。

主婦 近藤 悦子
◎私達が日常困っている事が、猫によって次々明らかにみだされて解決していき、楽しく見る事が出来ました。

科学評論家 相島 敏夫
◎ほ、え、ましい良い小篇です。

主婦 花岡 マサ子
◎明かるく楽しい映画で、その上環境衛生と云う事を自然に教えてくれる良い映画です。

家業手伝 菅 沼 礼子
◎猫を介しての環境衛生思想の啓発が効果的に描かれていた。その上猫の野性・知性も実に良くとらえられ驚くばかりだった。

会社員 石川 恵子
◎楽しいコメディであつたし、衛生思想を高めようとするアイデアも面白い。

記録映画作家 米内 義人
◎狙いと云うか取り挙げ方が大変面白く思います。これは撮影は大変だったろうと思います。ひねつた割りにはいや味が無く結構でした。

記者 小林 一夫
◎面白い観点から描いた啓発映画で興味深かった。

主婦 宮原 和子
◎素晴らしかった。猫がいに感心しました。言うところ無し。

B・G 安 いづみ
◎大変すっきりしたものでした。全巻を猫で貫いた事が良い効果を与えている。撮影の苦労もしのばれ、編集の苦心も分った。

主婦 深柳 中
◎猫が好きなので、ノラ猫ちゃんがどんな演技を見せてくれるかと楽しく拝見しました。

第三回 科学技術映画祭 受賞作品

天然色科学映画

血液 三巻

これは生体の神秘を顕微鏡下に如実にとらえた素晴らしい映画である。動く絵画といつていいほど美しい。

血液が生命と健康の維持に重要な事は、今さら言うまでもない。特に止血とそれをめぐるのしくみは現代医学の焦点でもある。

この記録映画は、す、みゆく医学を基盤に、それへの映画技術の挑戦によって、この血液の焦点に対決したのである。ここでは今までつかみ得なかつたいくつかの問題が解明されて、今後の新しい話題を投げかけている。

「猫の散歩」 十六ミリ版

全三巻（三〇分） 定価 四五、〇〇〇円

他に三五ミリ版もあります。

株式会社

桜映画社

東京都新宿区角筈二一八四

スタンダードビル内

電話 (37) 八二四一(代)

(36) 九八二〇(直通)

